

## 【Khaṇḍana bhava-bandhana】解説⑨

ナモー ナモー プラブ ヴァーキヤ マナーティタ マノ ヴァーチャナイーカーダール プラブ  
9. Namō namo prabhu vākya-māṇa-tīta mano-vachanaikādhār (prabhu)

敬礼！ 敬礼！ 宇宙の持ち主 言葉・話 心 超越

ジョーティラジョーティ ヲジャラ フリディ カンダラ トゥミ タマ バンジャナ ハー プラブ  
Jyotira-jyoti ujala hṛidi-kandara (×2) tumi tama bhañjana hār (prabhu)

### <賛歌集の訳>

繰り返し主なるあなたに礼拝します。おお、言葉と心の限界を超え  
しかもそれら両者の共通の基礎である主よ。ハートのうちに永遠に輝く、光のうちの光よ。  
そこにある無知を滅ばしてください。

### <内容>

### <語句解説>

Namo : 敬礼する、仏教の南無、  
prabhu : ※1. 持ち主 (世界の持ち主、永遠の持ち主＝ラーマクリシュナ)、師  
vākya-māṇa-tīta : ※2. 言葉と心を超越した

### <注釈>

※1. prabhu : prabhu には大きく二つの意味があります。

① 「宇宙の持ち主」 = 「神の化身」の意味

(歌) 「ディンドウイティネ ジュンネ ジャレコッタボレマンナカレ  
シカッタールディデフィレ カラカレカッタエレ～」

普通の持ち主は一時的で、死神ヤマが来て火葬場に運ばれ、焼かれて無くなります。  
しかし、「宇宙の全ての物」や「人」の持ち主である「神様」は無くなることはなく永遠です。  
そしてまた、宇宙の全てのものは神様のものです。  
普通の家に住む人は、その家の持ち主の命令に従います。召使いもそうです。  
宇宙の維持は神様の命令でなされ、神様の意思で全てのものはできています。  
神様の意思がなければ一枚の葉も動きません。(「ラーマクリシュナの福音」より)  
このように神様は全ての人をコントロールしています。

## □ バガヴァットギター 18章 61節

イーシュヴァラハ サルヴァ・ブーターナン フリッ・デーシェールジュナ ティシュタティ/  
プラーマヤン サルヴァ・ブーターニ ヤントラールーダーニ マーヤヤ

「アルジュナよ！至高主(神)は全生物の胸に住み、神秘力(マーヤ)によって彼等を動かしてお

られる。まさに運転手が車を動かすように。」

車が動くのは、車の意思ではなく運転手がコントロールしているからです。正しい道を進むのも間違った道だと気づいて引き返すのも、運転手のすることで車の意思ではありません。

日本には文楽（人形浄瑠璃）があります。人形が踊ったり歌ったり話しているように見えますが、本当は後ろで人形使いが糸で操っています。

そのように、神様は私たちの心の中に座り、マーヤを媒体として、操り人形のように歌ったり踊ったり、話したり喧嘩させたりと私たちをコントロールしているのです。

しかし我々は全くそのことへの理解がなく、「『私』が話している」、「『私』がやっている」と思い込んでいて、まるで操り人形のようなのです。

我々はエゴでいっぱいですから、無智とマーヤの影響で『私』がやっていると考えますが、本当は神様がなさっているのです。

例えば、眠っている時に誰かがあなたを殺しに来たとします。眠っているあなたは全く抵抗することができず無力ですが、起きるとまたエゴや自惚れがたくさん出てきて、なんでも自分がやっていると思ってしまうのです。しかし、本当は全て中にいる神様がなさっているのです。

宇宙の持ち主（神様）は私たちの心の中に座り、運転手のようにコントロールしているのです。

インドにとっても有名な歌があります。

「シャクリトマリチャイ…」

「神様、あなたは操縦者、私は機械です。私は車、あなたは運転手です。私は建物、あなたはそこに住む人…。」

スワミー・ヴィヴェーカーナンダはシュリー・ラーマクリシュナの事を「神様の化身」という意味で「prabhu（宇宙の）持ち主」という言葉を使っていました。

「神様の化身」は肉体を持っていますから限度はありますが「本質は神様」です。

## ②「師」の意味

シュリー・ラーマクリシュナは神様の化身で、スワミー・ヴィヴェーカーナンダにとっては「師」「導き者」でもあったので、この賛歌の場合の「prabu」は両方の意味が含まれます。

※2. vākya-mañā-tīta = vākya + mañā + atīta : 言葉と心を超越する

### ・バッキヤ vākya : 言葉、話

シュリー・ラーマクリシュナは、全ての言葉や心を超越した、無限のお方ですから、普通の言葉でシュリー・ラーマクリシュナの本性は説明できません。

また、シュリー・ラーマクリシュナを説明する書物を読んだとしても、それも言葉ですからやはり本性を理解することはできません。このように言葉（vākya）の力には限度があります。

## ・マナ maña : 心

母の子供に対する愛を言葉で説明しようとしてもなかなかできません。しかし心ではわかります。このように、言葉では説明できないけれども心で理解することができるものもあります。しかし、シュリー・ラーマクリシュナの本性、神様の本性は言葉でも心でも理解はできません。なぜなら、本性とは深く精妙なもので「サッチダーナンダ」だからです。

## ・アティータ atita : 超越

シュリー・ラーマクリシュナを「持ち主」だと理解することはできますが、「本性」は言葉で聞いて理解することはできません。なぜなら、私たちの心はたくさんの「汚れ」で一杯だからです。心は鏡のようなものです。鏡が汚れていたのでは太陽の光を反射できないように、執着や自惚れや怒りなどで汚れた心の状態では、神様の光を反射することはできません。しかし、鏡がきれいになれば光を反射できるように、もし我々が純粋な心を持つことができれば、言葉で理解できなくても、心で理解出来ます。

福音の中の言葉では「シュッダ ブッディヒ…」、純粋な心で神様の理解ができるとあります。  
（「ラーマクリシュナの福音」より）

「シュッダ ブッディヒ アバン マナス ウィーチャラ」

アバン：言葉

マナス：心

アーバン ナイ ヒ：言葉と心でできない

言葉と心で神様の本性は理解できませんが、神聖な心でなら出来ます。

心を純粋にする（神聖にする）こと以外で神様を理解する方法はありません。

ですから、今の「汚れた心の鏡」を「きれいな（純粋な）心の鏡」に磨けば、我々もいつか必ず絶対に神様を理解できると福音にも書いてあります。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは普通の心（不純な心）では vākya-mañā-tita はできず、それを超越しないとできないと言っています。

「普通の心を超越する」とは「心が純粋になる」ことです。

神様（シュリー・ラーマクリシュナ）の本性は普通の言葉や心では理解できませんが、神様は「相対的な姿」、「絶対的な姿」の二つのお姿を持ちます。

相対的な神(Relative God)でもあり絶対的な神(Absolute God)でもあります。

相対的な見方では、神様は全てのものの基礎です。宇宙には汚いものと純粋なもの、良いものと悪いもの、聖者と罪人、純粋な心と不純な心など、善悪の両方が存在します。

絶対的な見方では、シュリー・ラーマクリシュナの本性は、普通の心と言葉を超越しないと理解することはできません。